

安曇野市教育委員会第1回臨時会会議録

日 時：平成29年4月3日（月）午前11時00分

場 所：安曇野市役3階「会議室301」

出席者

教育委員：教育長 橋渡勝也、教育長職務代理者 唐木博夫、教育委員 須澤真広、

教育委員 横内理恵子、教育委員 二村美智子

事務局：教育部長 山田宰久、学校教育課長 鎌崎孝善、生涯学習課長 蓮井昭夫、

文化課長 那須野雅好、図書館交流課長 丸山高人、

学校給食センター長 曾根原正之、学校教育課教育指導室長 中村真市

書記：学校教育課教育総務係長 平林洋一、教育総務係 岩原遼子

傍聴者：報道機関 2名

◎開 会

教育部長 定刻になりましたので、ただいまから平成29年度安曇野市教育委員会第1回臨時会を開会いたします。

◎教育長挨拶

教育部長 新教育委員会制度への移行に伴い、先ほど新教育長として宮澤市長から橋渡勝也教育長に任命書が交付されましたので、ご報告申し上げます。

では、橋渡教育長からご挨拶をお願いいたします。

教育長 今日は何度もご挨拶をする機会がございますけれども、改めまして教育長に就任いたしました橋渡でございます。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

二つのことをお話ししたいと思います。

一つは、この新教育委員会制度は既に平成27年4月1日からスタートしているわけで、安曇野市もそれに基づいて総合教育会議が既に何回も開かれております。初年度の総合教育会

議では、いわゆる教育大綱、今後の安曇野市の教育のあり方を策定したわけでございます。

そこにある教育指針、もう既に御存じのように少し長い文章でございます。「北アルプスの裾野に広がる安曇野の豊かな自然と向き合い、幼児期から生涯にわたり、先人が培ってきた歴史と文化を学ぶとともに誇りをもち、明日を切り拓くたくましい力と思いやりをもった、心豊かな国際的な市民を目指します」。これは、あらゆることが網羅されていて一つ一つみんな大事なことなものですから、どれも落とせないわけですが、残念ながら私が今手元にあるだけでも3行にわたる一文、これはなかなか覚えるわけにはまいりません。こんなことが策定されたという、冊子の中にある言葉ではなくて、もっと表に引き出して教育委員会も、また市民も学校も地域もみんなでそこを目指すという、そういうことをやっていく必要があるのではないかな、そんなことを思いまして、年度末に、わかりやすく、覚えやすいキャッチフレーズ的な言葉に置き換えることはできないかということを思案してまいりました。

そこで、到達したのが「たくましい安曇野の子ども」、こういうフレーズでございます。これだと覚えられない人はないだろうと思うわけですね。ところが、一方であまりにも短いものですから、「たくましいってどういうことか」ということをつい説明したくなってしまう。これはもちろん肉体的なたくましさだけを言っているものではありません。

そこで、もう少し、「たくましい」にこういうことで迫るんだというのが伝わるような言葉はないかな、そこで次のような言葉を上につけました。「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる、たくましい安曇野の子ども」。学校教育目標もそうですけれども、知徳体のバランスのとれた、そういう人間を育成するんだということがよく言われます。そういったことにも通ずる言葉かな。しかも、わかりやすく子どもにも理解できる言葉かな、そんなことを思いまして、この「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる、たくましい安曇野の子ども」、これをこれから発信していきたい、というふうに考えているわけでございます。

ちなみに、このからだを動かしのフレーズは私の創作ではございません。安曇野の生んだ評論家、作家、そして教育者である臼井吉見さんが、中学生に対して行った講演会の中で使った言葉でありまして、「自分をつくる」という筑摩書房から出ている本に既に書かれていて世に出ている言葉でございます。

二つ目は、最近「安曇野文芸」という御存じの冊子が35号の特集ということで出されました。今回、35という数を区切りにしたというのは、編集長の中島博昭さんが本当は40号まで待てばいいんだけど、会員がだんだん高齢化してきて40まで待てるかなという人も出て

きた、と。これはひとつ35で一つの区切りをつけたい、そんなことをおっしゃって私のような者にも寄稿を求められたものですから、一文書かせていただきました。

この安曇野文芸は、出発は穂高町時代の成人学級で行っていた文学講座、これが基になって、自分たちで文芸を創作するような、そういうことをやっていこうではないかということで、当時の穂高町時代の社会教育課の担当者と中島さんらが始めたということで、現在まで続いているわけです。

この会のモットーといいますか、根幹にしている言葉がこの裏表紙のほうにデザイン化されて記してありますけれども、「溢るるものこそすべてである」、こういう短い言葉を載せております。これは、島崎藤村が穂高藤村会に昭和15年に贈った言葉なわけですが、御存じのように穂高会館の前庭にライオンズクラブが立てた大きな石に刻まれてございます。穂高地域の小中学校にも色紙がそれぞれ飾られているので、御存じだと思います。この「溢るるものこそすべてである」、これを原点、根幹に据えてやっておられます。

私は、最初何のことか全然わからなかったんですね。「安曇野文芸」が大事にしている言葉ということも知らず、ただあの石碑を見て藤村が贈った言葉だ、「溢るるものこそすべてである」。何が溢れるのか、すべてであるってどういうことなのか、全然わからなかったんですけれども、私なりに勝手な解釈をすると、文を書く、あるいは物語を創作する、そういうことは自分の体の中に溢れるほどの思いがわき上がってこなければ、そんなものは書けるものではない、表せるものではない、そんなことを言おうとして贈られたのではないかと、うふうに勝手に理解しております。

さらに、私は自分に置き換えたり、教育委員の皆様とこの言葉を今味わってみようと思うのは、教育委員会が新しくなった。では、何が新しくなるか。今日座席が変わったもので、座席が変わっただけかなという、こういうことではないんですね。やはり、ここでの活性化ということも大きなねらいの一つであるわけです。そうすると、私たち一人一人の内なるものに溢れるものがないと、ここでの議論は活発になってこないと思うんですね。

これは、学校において教師の立場に立ってみてもそうだと思うんです。教科書に書いてあるから教えるではなくて、自分がこのことを子どもたちに伝えたいんだという思いがあれば、自分で足を運んでいろいろなことを調べて、そして教材化して、そして明日子どもたちがこれを出せばどんな顔をするのか、わくわくするような気持ちで向かう、まさにそれが教師の仕事であるとは私は思っているんですけれども、そういった内に溢れるもの、これこそがすべてであるという、これが非常に大きな、そして大事なことだと思うんです。

事務局の皆さんも今日おられます。「自分の仕事に自信と責任を持て」と言われ、「だからやるのだ」ではなくて、与えられたものに対して「自分には何ができるんだろうか」と考え、そして自分の足で歩いて、そして肌で感じ、そういう中から生まれた溢れる思い、溢れるもの、そういうことが仕事を光らせていくのではないかな、そんなふうに思っております。

大変生意気なことを申しましたけれども、それは私自身にも言えることでございます、教育長としての責任は重くなったけれども、では問われる責任を恐れて何もしないのではなくて、やはり自分の内にそういった溢れるものをいかに蓄えていくか、これが自分に課された努力であり、精進すべき内容であり、使命であるかな、そんなことも思いまして生意気ながら、そんな決意を語らせていただいて冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

教育部長 ありがとうございました。

教育部長 続きまして、4月1日付の人事異動によりまして、学校教育課長、教育指導室長、図書館交流課長が着任いたしました。自己紹介申し上げます。

学校教育課長 こんにちは。総務部行政管理課というところから参りました鎌崎孝善と申します。よろしくお願いいたしますと思います。

学校教育課教育指導室長 こんにちは。教育指導室長を拝命いたしました中村真市と申します。穂高北小学校で3年間お世話になりました。よろしくお願いいたします。

図書館交流課長 こんにちは。図書館交流課長を拝命しました丸山高人と申します。前任は、総務部危機管理課長でございました。よろしくお願いいたします。

◎議案第1号 教育長職務代理者の指名について

教育部長 では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第1項の規定によりまして、教育長より会議の進行をお願いいたします。

教育長 それでは、議事に入ります。

次第に沿いまして、議案第1号 教育長職務代理者の指名について、事務局より説明を願います。

教育部長 「教育長職務代理者の指名について」資料により説明。

教育長 ただいまの説明にご質問等、ございますでしょうか。

よろしいですか。

では、ただいま事務局から説明のありました教育長職務代理者の指名を行いたいと思います。

教育長職務代理者として、唐木博夫教育委員を指名します。

皆様、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 ありがとうございます。

では、唐木教育委員を教育長職務代理者に承認いたします。

唐木教育長職務代理者から、ご挨拶をお願いいたします。

唐木委員 教育委員の唐木博夫です。

ただいま教育長のほうから、教育長職務代理者として指名を受けました。謹んでお受けしたいというふうに思います。

4月1日より新教育委員会体制に入ったわけですが、それに伴って教育委員会自身もいろいろなやり方が問われていく、また改革を求めていかなくはないかなというふうに思っております。その中で教育長といかに連携を図っていくか。それから教育委員会議のほうの充実、活性化をいかに図っていくか。それから、市民の意向とか、教育への市民要望は何か、それをどう把握していくか。何よりも教育委員の役割とか責任とは一体新たに何なのか、その辺のところも考えながら指名を受けていきたいというふうに思います。

また、今後も安曇野市の教育、文化、スポーツの振興に向けて力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上であります。

教育長 ありがとうございます。

◎その他

教育長 次に、その他について、委員の皆様から何かあればお願いいたします。

(発言する者なし)

教育長 よろしいでしょうか。

では、以上で協議案件はすべて終了いたしました。

事務局から、さらに連絡事項がございましたらお願いいたします。

教育部長 事務局から事務連絡でございますが、この後この会場にて昼食を召し上がっていただきたいと思います。ご用意をさせていただきますので、しばらくお休みください。

◎閉 会

教育部長 以上をもちまして、第1回臨時会は閉会とさせていただきます。

お疲れさまでした。